

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400762		
法人名	社会福祉法人 宝寿会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう		
所在地	兵庫県神崎郡神河町福本字中茶屋山 1241-3		
自己評価作成日	平成22年6月26日	評価結果市町村受理日	2010年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kaigo.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町 8-8-104		
訪問調査日	2010/7/14		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境に恵まれている ・ 玄関横に畑があり、入居者が気軽にいけ、収穫した野菜を使い料理している ・ 食事は、家庭的な献立で、季節感が出るようにしている
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは山の斜面に位置し、四季折々の木々のうつろいが身近に感じられる環境にある。母体法人の併設施設と隣接しており、法人としての協力連携体制が図られている。職員自らが考えた「共に楽しみを持ち、自分らしく暮らせるホーム」を職員自身の手で実践している。利用者一人ひとりへの語りかけ、個性を活かした楽しみや役割の取り組みなど、自分たちが楽しむことで利用者をも自然に巻き込みながら和気あいあいとした雰囲気になっている。横にある畑で共に育て、収穫したての野菜を食材にした手作りの惣菜は、利用者、職員が毎日を元気で楽しく、生き生きと暮らす要といえるのではないだろうか。今後は、ホーム独自の地域へのホームの周知、双方向の関係作りなど、職員、利用者が一緒になって取り組まれることを期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者が、職員と共に楽しみを持ち、自分らしく暮らせるホームを目指します」という理念のもとに、職員が実現に向けて取り組んでいる	理念は、職員が考えまとめた。職員自らが楽しむことで、利用者も共に楽しみ、さらに利用者本人のこれまでの生活の維持に努めながら、共感し合える関係づくりを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町の文化祭等に入居者の作品を出品し、見学している ・地域の美化デー(年2回)に職員が参加している ・ドライブで地域の桜を観に出かけたりしているが日常的な交流にまでは及んでいない	町主催の文化祭に利用者の能力を活かした手作り作品を出展し、近隣住民に見てもらい交流にも繋げている。併設施設にきている音楽ボランティアとの交流も楽しみとなっている。	近隣住民に來訪してもらうなどの、双方向の交流機会も検討されてはいいかがか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地元学生のボランティアや実習を受け入れているが、地域の人々に向けての活動は行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1度、行なっている。 ・行事報告、入居者の状態の報告、入・退居状況などの報告、意見交換を行なっている。	地域からは、区代表者2人、又民生委員が参加することもある。火災発生や土砂災害等の危機管理対策についての意見が出され、話し合った。利用者も参加している。	会議を避難訓練の機会として活かすなど、ホームの理解やさらに運営、サービスの質の向上に向けた積極的な意見交換の場となるような工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議には必ず、市町村担当者に出席いただいている。また、困難事例などでの相談や、対応についてアドバイスをいただいている	事務手続きなど、必要に応じてメールも含めやりとりはある。利用者の対応などで、随時相談もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・宝寿会全体で、身体拘束をしない方針であり、ホームでの会議において、職員で話し合い確認し合っている。 ・玄関の施錠については、玄関横の坂道が急な為安全面を考慮し、行なっている	法人としての全体研修及びホーム内での勉強会などで、職員間の周知に努めている。玄関鍵は、安全上、施錠している。	利用者の安全重視、かつリスクについての十分な説明を家族に行うとともに、施錠による利用者への閉塞感の軽減策等を、職員間で検討されてはどうだろうか。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止マニュアルを備えている。 ・日頃から、入居者の身体の変化や対応の仕方について、職員同士で確認し合い、注意し合っている	マニュアルを作成し、職員への周知に努めている。日常的な言葉かけには職員間で特に意識し合い、注意するようにしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・今のところ、対象者はいないが、制度についてパンフレットなどで勉強を行なった	パンフレットなどの資料を、職員間で読み合わせながら、理解に努めた。現在、対象者が1人あり、管理者は制度活用の必要性を強く感じている。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入・退去時には本人とその家族に十分説明を行い、相談などにはアドバイスを行なっている ・加算については、改定時に説明を行い同意書にて理解を得ている。	入・退去時、本人や家族には、特にサービス内容や費用関係について詳細に説明し、必要時には同意書を取っている。家族の協力の必要性についても理解を求めている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議には、入居者及び家族に参加いただき、意見や要望を出せるようにしている ・家族の訪問時には職員が話しをしながら、意見や要望が出やすいように配慮している ・ホームの苦情受付担当者をおいている	年間行事には、多数の家族参加があり、その折には家族間の交流の時間を設けている。家族へのアンケート、推進会議での意見発言など、意見を表わせる機会や雰囲気づくりに努めている。普段の来訪時にも積極的に職員は声かけを行っている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月グループホーム会議や、各ユニットでの会議で職員の意見や提案が出せるようにしている ・要望書や購入伺い書などで、必要物品の購入や、催しの提案をし、説明のうえ提出している	各ユニット及び全体会議等、積極的に意見、提案を出してもらっている。法人全体での職員個人面談も、職員の思いも含め個別に話しを聞く機会としている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者及び職員には、年1回自己評価を行い、人事考課制度を導入している ・年1回の衣服費の支給 ・パート職への日曜出勤手当 ・交付金の支給			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月一回、特養での職員研修を実施している ・認知症実践研修、地域のケアステーションでの勉強会、姫路リハビリテーションセンターでの研修、その他職員に合わせた研修を受ける機会を設けている ・認知症ケア専門士や介護支援専門員の資格取得に挑戦する者もある			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域での施設間合同研修に参加し、そこでの取り組みが、「気付き」となり入居者への支援方法の改善につながっている ・町内3グループホームで2ヶ月に1回、グループホーム連絡会を開き、情報交換・意見交換をおこなっている			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・アセスメントシートに基づき、本人と事前面接を行い、こちらからの訪問や、ホームへの見学の機会を作り、安心していただけるように努めている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族と事前面接を行い、家族の立場に立って気持ちを受け止め、本人と家族双方の思いの違いを受け止めながら、		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・併設特養があるため、その利用も含め、また、ケアマネージャーがいる場合は、連絡を取りながら必要としている支援を見極めるようにしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者が昔から生活の中で培ってきた知恵を教わり学ぶ姿勢で、それを活かした支援を心がけている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員は家族の思いや本人の気持ちを受け止めながら、出来る限り、楽しい時間を過ごして頂ける様に、家族との時間の構築を心掛けています。 ・花見・紅葉狩りなどに家族も参加 ・誕生会への家族参加		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・自宅近所の美容院への送迎 ・地域の集まり(お大師さん)への参加 ・墓参り など、家族と相談しながら無理のない程度に支援を行なっている	一時帰宅や馴染みの美容院、これまで参加していた地域の集まりなど、家族の了解、協力を得て支援している。友人、知人の訪問も積極的にお願している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・生活を共にする中で、思いやりや助け合う気持ちが芽生え、それが自分自身の支えとなっていることがある。また、間に職員が入り入居者同士の関係が悪くならないよう努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院退去後のお見舞いや、告別式への参加。 ・状態が良くなり自宅に帰られた方も、ケアマネジャーから情報を得ている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常の何気ない会話の中から、自身の思いや希望をくみとり、できるだけ実現できるように努めている。 ・食については嗜好調査を行ない希望に添うよう努めている。	利用者個々の性格や癖などの生活習慣から、本音の部分を汲み取り、本人が意思表示しやすい声かけや雰囲気づくりに努めている。個々の居室で、ゆっくり時間を取り話すこともある。		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時のアセスメントにて、本人及び家族より伺った上で、日常会話でえた情報を職員同士共有している。また入居前のケアマネジャーからも情報を得るようにしている。			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日常生活動作記録や職員同士の口頭での引き継ぎ、また、引継ぎ帳で日々の様子や心身状態を把握している。ケース記録への記録保管を行なっている。			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人の希望や要望がある場合はそれが実現できるような計画になるが、本人や家族からの希望が聴きだす事が困難な場合は、本人本位に考えるようにしている。	利用者一人ひとりの具体的な思いや身体状況から汲み取り、計画に反映させている。リーダーが原案作成し管理者とまとめている。家族の意見も参考にしながら、本人の思いを優先させることを基本としている。		
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常生活動作記録を元に、入居者の個人記録に記入している。ケース記録はパソコンに入力し、引継ぎ帳は、読んでサインするだけでなく、口頭でも伝えるようにし、毎日の変化を記入することにより入居者の状態を伝えるよう努めている			
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族の希望によっては入居者の居室に宿泊することは可能である。また、急な外出・外泊希望にも対応できるようにしている。併設特養の行事にも参加したり、日常的に交流し、職員も対応している			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域ボランティア(習字教室、朗読、音楽、外出支援、大正琴演奏)の協力 ・入居者の地域の民生委員や老人会、区長の訪問 ・町の文化展、書道展への出品や見学		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時にかかりつけ医を確認し、継続しているが、特にない場合はホームの協力医を受診している。 ・宝寿会としての協力医が変わったため、今後、移行するよう検討している。 ・受診の際家族が付き添えない時は、職員が付き添っている	殆どの利用者は入居前のかかりつけ医に継続受診している。基本的には家族送迎であるが、都合がつかないときは職員が付き添っている。緊急時にはかかりつけ医に連絡するが、併設特養の協力医に往診を依頼することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	・看護職の配置や、訪看との契約はなく、特養の看護師のアドバイスをもらうことはある。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、ホームでの生活状況を情報として提供し、また、面会などで病院での様子や病状を把握するよう努めている。	入院時には不安解消のため利用者への面会を重ね、病院担当者には生活状況を報告している。安静対応の状態に落ち着くと、早期退院の実現のため関係者と連携を密にし受け入れ準備を始める。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・早い段階から、本人家族と相談し適切な医療や、栄養が確保できるよう対応している。 ・ターミナルケアについては、本人・家族の意向を聞きながら、かかりつけ医に相談しているが、文書での取り交わしにまで及んでいない。	4年前に、事業所で毎日点滴をしながら最期を看取ったケースがあった。現在も100歳近い利用者が2名おられる。家族や医師と話し合い、連携を持ちながら最後まで満足していただけるよう、職員の心を一つにして取り組んでいる。	事業所としてできる終末期の最大の支援を明確にし、早期に利用者や家族と文書で取りかわしておくことは、より迅速なチームケアにつながられるのではないかと。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年1回、職員研修で応急処置の訓練を受け、マニュアルを設置している。また、実際に急変などで対応にあたった職員が、他の職員に伝える事で振り返りとなり、話し合い、情報を共有している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・併設の特養と合同で年2回、消防署の指導のもと、昼間・夜間を想定する、消防訓練・避難訓練を実施している。 ・平成21年4月より、月1回防災設備点検を職員が行なっている。 ・運営推進会議を通じて、緊急時地域への協力を呼びかけている。	法人合同で昼間想定と夜間想定消防・避難訓練を実施している。防災設備の点検も月1回行い、災害対策に対する職員の意識づけを図っている。緊急時の地域の協力を運営推進会議で依頼しているが、呼びかけにとどまっている。	事業所は山の斜面に位置し住宅とは離れているため、緊急時に地域の協力は得にくい状況である。運営推進会議の地域代表に、近隣住民の訓練時参加を積極的に依頼し、日常的に協力体制を構築しておかれないかが。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人一人の身体能力に応じた支援を行うと共に、自尊心やプライバシーを傷つけない言葉かけ、対応を心掛けている。 ・接遇研修に参加し、自己での振り返りをおこなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりを尊重する支援については、ホーム会議等で話題にして職員の意識づけを図っている。法人の接遇研修に参加し、職員は個々に言葉かけや支援態度を振り返り話し合っている。また、利用者の個人情報には慎重に扱い保管している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・外出を希望がある入居者については、食材の買い物時に声かけしてきている。 ・ 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・外出の希望がある入居者には、できるだけ応じるようにしている ・その日の気分や、体調で、居室で横になりたい時には休んでもらっている 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・行きつけの美容院に外出、お店の人との会話も含め、支援している ・誕生日や特別な外出には、希望で、その人らしいお化粧をしている ・入居者の中には、自分で購入した化粧品を使っている 		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の食材を有効に使い、希望の献立を取り入れたり、楽しく食事が出来る様になっている。出来る限り、食事作りから、後片付けまでの一連の工程と一緒に参加を呼びかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット毎に利用者の希望を聞きながら献立を決めている。畑から収穫した野菜を利用者とともに調理し、食事の際の話題づくりとしている。併設施設の栄養士を招き勉強会を行ったが、食事の工夫として参考になったとの感想があった。 	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事および、水分摂取量を記入、一日の摂取量を確認、把握している。食事摂取量の少ない方については、口当たりを良くしたり、食べやすい大きさや形体に食べる直前にし、食べていただくように配慮している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、うがいや歯磨きは、入居者の応じて見守り、一部介助している。義歯はポリドントに浸けて、消毒している。一週間に一度、義歯容器を消毒している。 		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・尿失禁の多い入居者に対し排尿チェックで排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いできるだけトイレで排泄できるよう努めている。 ・個々のできる力に応じ、手伝う量、方法を考えると共に、温かい清拭で清潔にも配慮している。 	入所初期の利用者や尿失禁の多い利用者のみ排泄チェックを記録している。職員が利用者個々の排泄リズムを熟知しているので、適切にトイレ誘導を行なっている。布パンツの方も6人あり、利用者の自信回復につながるトイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜や果物を多く取り入れた献立や朝食時にヨーグルトをつける工夫をしている。 ・便秘の訴えの困難な入居者に対しては、排泄チェックと行動からトイレの際に腹部へのマッサージなどを行っている。 		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員体制により、夜間の入浴は行なわず、午後2時頃より毎日入浴を行なっている。 ・体調をみながら声かけし、毎日入浴したい入居者にはできるだけ入れるように心がけている。 	入浴時間は基本的には午後2時から1日おきと決めているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。個浴対応が不可能となった場合には、併設の特養の機械浴を利用できる体制を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に応じた寝具で、冬暖かく、夏涼しいように室温の調節に努め、照明にも配慮している。 ・夜間、眠れなかった入居者については、朝の様子をみて無理に起こさず、睡眠を優先し時間をずらして食事が取れるようにしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ファイルに薬の処方箋を添付、すぐ確認出切るようにしている。 ・日常生活動作記録表に服薬の有無、服薬介助者を記入、あたらしい薬や短期間の薬はわかるよう記入している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物をたたむ、食事の盆を拭くなどの役割 ・毎朝、ホーム前を散歩をする 		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅の地域の集まり(お大師さん)への参加 ・入居前に利用していた施設への訪問 ・入居前に利用していた美容院の利用 ・毎年行なわれる同窓会に家族付添いで出席 ・墓参りに家族と外出 	事業所の周囲は平坦で一周すると眺めの良い場所もあり、日常的に散歩ができる。併設の特養の行事参加や理美容サービスにも出かけている。徒歩での遠出の外出には危険が伴うが、買物、喫茶店や地域の集まりへは車での送迎支援を行なっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望する入居者にかぎり、自分で財布を持ち、希望があれば職員が同行し買い物に行っている ・行事等外出の時は、ホームの立替にて適当な額の現金を持参し、使えるようにしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族や親戚、友人など、電話をしたいと希望された時は、電話できるよう支援している。 ・誕生カードやクリスマスカード、年賀状などを楽しみにしている入居者もある。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは適度に自然光が入り、天気により照明を調節している ・空気清浄機を設置、不快なおいを早く取り去る ・ソファ、コタツ、木製の食器棚など ・季節の花をホーム内に飾っている	リビングには天窓や広く大きいガラス戸から明るい光が入り込み、利用者は山の斜面の木々を見て、季節の変化を楽しんでいる。畳のコーナーはコタツ仕様にもできるが、利用者の寝転びの場ともなっている。周囲にソファやマッサージチェア、旧式蓄音機が置かれ、全体的に落ち着いた雰囲気となっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・窓際のソファとテーブル、畳スペースの掘りごたつ中庭のベンチなど		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・孫からのぬいぐるみや家族の写真などを飾っている ・様々な事情から、ベッドやタンスなどは使い慣れた物でなく、購入している ・入居者によっては、周辺症状から持ち物を一定のところに置かずに生活しているのも現状である	居室入口に職員手作りの暖簾が掛けられプライバシーに配慮がなされている。状態や好みにより、床に畳を敷き布団を使用している利用者もある。症状が重度化して持ち物などの配慮が必要な利用者もあるが、時には子どもたちが集まり泊まっていく家族もあり、自宅という雰囲気が感じられる部屋もあった。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	・廊下、トイレ内、浴室の手すりにて、安全に歩行移動できるように配慮している ・トイレの扉に「トイレ」と目の高さに表示 ・キッチンの対面式カウンターは入居者に合わせた高さで、炊事に参加しやすいようになっている		